

特別な支援を必要とする子どもへの就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

少子高齢化の影響により高山村においても人口減少は続いており、人口約6,600人、村営の保育園1園、小学校1校、中学校1校の小規模自治体である。

こうしたなか、よりきめ細やかな学習支援の充実に取り組む一環として、特別な支援を必要とする子どもへの就学前から学齢期、社会参加まで切れ目ない支援を行うため、特別支援連携コーディネーターを配置することとした。



成果

- 一人ひとりの子どもに対する指導及び支援の充実を図ることができた。
- 教育、福祉、保健、医療等の各部局間の連携を図り相談支援を進めることができた。
- 個別の教育支援計画に基づき、学校間の引継ぎや関係機関との連携を図ることができた。
- 今後の支援に繋げるため、相談支援ファイルの作成に努めた。

事業内容

- 特別な支援を必要とする児童が保育園入園、小・中学校入学となった際に、それまでに構築した支援内容を無駄にすることなく円滑に引き継ぐとともに、組織的、計画的に進めることにより一人ひとりの子どもの支援充実を図る。
- 当該児童の乳児期等早期からの教育相談・支援に資するため、医療機関、村保健師、子育て支援センター、保育園、小・中学校等の関係部署・機関等や地域等との連携・調整及び情報交換が可能となるシステムの構築を図る。
- 子育て支援センター、保育園、小学校、中学校を包括する「特別支援連携コーディネーター」1名を配置し、当該児童と各部署及び各機関間の連絡調整を実施する。

体制図

